

平成27年度

施策評価マネジメントシート(平成26年度の実績評価)

記入年月日

平成 27 年 7 月 15 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	建設課	主管課長名	尾見 誠
406	施策名	道路整備と公共交通の充実	関係課	都市整備課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	・市民 ・市内の道路	① 桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190		
② 市内道路延長(国道、県道、市道)			km	見込値			1,627	1,634	1,635	1,636	1,637	1,638
				実績値	1,627	1,627	1,626	1,626	1,626	1,621		
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	利用者が安全、快適に移動できるようにする。	① 市内の道路が安全・快適に利用できる と感じる市民の割合	%	目標値			23.5	23.5	23.5	24.0	24.5	25.0
実績値				23.3	23.0	18.4	19.2	17.8	18.6			
② 市内の公共交通機関に満足している 市民の割合		%	目標値			24.0	24.0	24.0	24.5	24.5	25.0	
			実績値	22.3	24.4	16.7	18.5	15.4	13.2			
成果指標設定の考え方	○市内の道路交通については、①「市内の道路交通事情に市民がどの程度満足しているか」で把握する。 ○公共交通については、②「市民の公共交通に対する満足度」で把握する。											
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○「市内の道路が安全・快適に利用できると感じる市民の割合」、「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」は市民アンケートによる。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○道路の損傷状況や危険箇所について、情報提供する。 ○道路整備や維持・管理について理解を深め、協力する。 ○鉄道・デマンドタクシー(乗合タクシー)などの公共交通機関を積極的に利用する。	○計画に基づき効率的に道路整備を行う。 ○道路整備に関する情報提供を行う。 ○道路の損傷箇所や危険箇所について、状況に応じて速やかに補修を行う。 ○国・県道の整備は国・県が主体となり、市は整備促進を働きかける。 ○民間交通事業者との連絡体制の強化に努める。 ○公共交通に対する住民意向の把握に努める。 ○近隣市と連携しながら公共交通ネットワーク形成を進める。
状況変化	3) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4) この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○高齢化による交通弱者の増加(路線バスの廃止、タクシー会社の撤退) ○平成26年11月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部が改正され、国は、コンパクトなまちづくりと一体となった面的な公共交通ネットワークの再編を目指し、『地域公共交通網形成計画』の策定を推奨している。 ○小学校の統廃合、通学の足の確保(スクールバス等) ○厳しい財政状況、地権者の同意が得られないことから、地区からの要望等未処理の案件がある ○高速道路への接続道路についてはアクセス向上の必要性がある。県道含む。 ○新設改良よりも維持補修が増加する見込み。 ○都市計画道路の見直し。(S52当時のものであるため現状にあっていない。)	○市内の公共交通機関に満足している市民の割合が非常に低いことから、市民の公共交通に関する期待度は高いと思われる。 ○デマンドタクシーの利用者の73.2%が70歳以上であることから、高齢者の期待度が高い。 ○デマンドタクシーの利便性の向上(市外へのアクセス、土日の運行) ○福祉タクシーの復活の要望がある ○バス運行の要望がある(反対意見もあり) ○国・県道(都市計画道路を含む)の整備促進 ○幹線市道の整備(道路改良:舗装改修:排水整備) ○市道の危険箇所の整備(特に通学道路の整備)

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 国・県道の整備促進	国道・県道	安全快適に移動できる	市内の道路が安全・快適に利用できると感じる市民の割合	実績値	23.0	18.4	19.2	17.8	18.6		
				%							
② 市道の整備	市道	安全快適に移動できる	改良率	実績値	20.2	20.3	20.4	20.5	20.6		
				%							
③ 市道の危険箇所の整備	市道	危険箇所を減らす	補修件数	実績値	547	835	500	745	542		
				件							
④ 公共交通サービスの確保	公共交通とその利用者	利用したい時に利用できる	公共交通に満足している市民の割合	実績値	24.4	16.7	18.5	15.4	13.2		
				%							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度予算
	① 本施策を構成する事務事業の数	件	30	31	32
② 施策事業費(一般財源以外)	千円	60,165	18,313	41,800	
③ 施策事業費(一般財源)	千円	450,441	420,316	385,575	
④ 施策事業費の計(②+③)	千円	510,606	438,629	427,375	
⑤ 施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	51,383	50,881	57,773	
⑥ 計(④+⑤)	千円	561,989	489,510	485,148	

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	主要事業		主要幹線道路整備事業
主要事業		デマンド交通運営事業	後期基本計画主要事業
主要事業		桜川市総合交通戦略策定事業	後期基本計画主要事業
事務事業		道路補修事業	H26貢献度上位
事務事業		排水維持管理事業	H26貢献度上位
事務事業		桜川市コミュニティバス試行運行事業	H27優先度上位

施策番号	406	施策名	道路整備と公共交通の充実	主管課	建設課
------	-----	-----	--------------	-----	-----

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市内の道路が安全・快適に利用できると感じる市民の割合は、21年度23.3%、22年度23.0%、23年度18.4%、24年度19.2%、25年度17.8%であったが、26年度は18.6%と0.8ポイント上昇した。しかし、21年度、23年度に比べ下降傾向である。その要因は、道路施設、道路舗装等が老朽化し改修率が低迷している事が要因と推測される。</p> <p>・道路改良率で0.10、道路舗装率で0.1ポイント上昇した。この要因は26年度において道路改良、道路舗装、道路排水工事を25ヶ所行ったことによる。</p> <p>・市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、19年度から22年度は22～24%台で推移していたが、23年度は16.7%と7.7ポイント下落した。その要因は、東日本大震災によりJRが長期間運休したためと思われる。24年度は一度回復したものの、25年度は15.4%、26年度は13.2%と大きく下降しており、市民の満足度は低い状況である。</p> <p>・デマンド型乗合タクシーの延べ利用者数は22年度18,781人、23年度は18,397人と減少している。要因として、東日本大震災の影響により、利用者が減少したことが考えられる(東日本大震災直後の2便を運休した以外は、翌営業日より通常営業)。24年度は19,640人であり、23年から1,243人増加しているが、これは酒寄地区児童の通学利用の開始が影響しているものであり、一般利用者は18,347人と若干減少している。25年度は19,298人(一般利用者17,725人)と減少したが、26年度は20,080人(一般利用者18,416人)と前年度と比較して782人(一般利用者691人)増加した。また、乗合率は、H24年度2.0人(一般利用者1.8人)、H25年度2.0人(一般利用者1.8人)、H26年度2.1人(一般利用者1.9人)となっており、昨年度と比較して0.1ポイント増加した。その要因は、利用頻度の高い固定利用者が数名増えたことによる。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>・①市内の道路が安全・快適に利用できると感じる市民の割合は、26年度目標値24.0%に対し18.6%と5.4ポイント下回った。25年度は岩瀬地区が16.2%、真壁地区が17.7%、大和地区が21.6%全体では、17.8%と上がっている。地区別にみると岩瀬地区19.4%、真壁地区18.0%、大和地区21.4%であり、25年度と比較し本年度わずかに上がった要因は、震災後の復旧工事等が進捗したと感じたり、一級市道の舗装改修を進めたことが要因と推測されるが、まだ安全・快適性を感じる割合は、目標値を大きく下回っている。</p> <p>・②市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、26年度目標値24.5%に対し13.2%と11.3ポイント下回った。デマンドタクシーは事前登録制・予約制であり、利用できる曜日や時間帯が限られること、自由に乗降できる公共交通機関がJR水戸線以外には市内にないこと、また県内で路線バスのない自治体が桜川市と筑西市のみであることなどが要因であると推測される。</p>		

2)他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・道路舗装率については平成24年4月1日道路現況調査により46.71%で、県内41位(県平均62.42%)であり、県西平均の61.88%に比べても未だ低い水準にある。この要因は、道路実延長が長く、また山間部、農地部の幅員の狭い道路を市道認定しているため、それらの区域の舗装率が低く、全体の舗装率に影響している。</p> <p>・近隣市町村においても、バス路線の廃止などの理由から、デマンド交通システムやコミュニティバス等による対策を講じている市町村が多い。</p> <p><近隣のデマンドタクシー等の導入状況></p> <p>■デマンドタクシー:筑西市、石岡市、笠間市、城里町、つくば市、土浦市等 44市町村のうち21市町村実施</p> <p>■コミュニティバス:笠間市、つくば市、土浦市等 44市町村のうち21市町村実施 ■無料バス:結城市、八千代町等 44市町村のうち8市町村実施</p>		

3)住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・総合計画策定時の市民アンケートでは、優先度は中上、満足度は低く、最優先課題項目となっている。</p> <p>・26年度のアンケート調査で「誰もが市内の道路が安全・快適に利用できる」と答えた市民の割合が18.6%と低かった。これは、市民からの道路に関する要望は、いつも多いことから期待水準は高いと思われる。しかし道路整備等については、高額予算、地権者同意等、様々な内容の問題が多く、進捗が遅いためと考えられる。</p> <p>・26年度のアンケート調査から、「市内の公共交通に満足している」と答えた市民の割合が13.2%と低かった。公共交通については喫緊の課題であり、市民からの要望も多いことから、期待水準は高いと考えられる。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・施策成果の向上に貢献した事務事業の総括 ・26年度においては、「市道」と「自家用車で移動できる市民」「自転車で移動できる市民」「公共交通を利用しないと移動できない市民」を重点対象に、「危険箇所を減らす」「市道を整備する」「公共交通機関を運営する」を目標に重点的に取り組んだ。</p> <p>・事務事業貢献度評価結果から、施策の成果向上に貢献した事務事業は、「道路補修事業」「排水維持管理事業」「道路改良事業」「デマンド交通運営事業」であった。</p> <p>・「道路補修事業」では、市内道路等542ヶ所の路面、路肩、道路排水などの補修を行い、安全の確保を図った。</p> <p>・「排水維持管理事業」では、47件の関連事業を行った。</p> <p>・「道路改良事業」では、25件の関連事業を行った。</p> <p>・「デマンド交通運営事業」では、デマンド型乗合タクシーの効率的な運行を目指し、超過距離に係る料金についてタクシー事業者と調整した。</p> <p>その他の事務事業では、</p> <p>・「自然災害対策・対応事業」では、3回の災害に対し市道法面・路肩等の復旧工事を110件行った。</p> <p>・「橋梁長寿命化計画策定に伴う修繕事業」では、長寿命化計画に基づき4橋の修繕設計を作成した。</p> <p>・「道路台帳加除業務委託事業」において、データのデジタル化を完了した。</p> <p>・「街路樹管理業務事業」において、484本の街路樹の剪定・防虫駆除(年2回以上)を行った。</p> <p>・「道路河川管理業務事業」において、市道境界確認を127件、用途廃止協議事務を12件、特殊車両通行協議を53件行った。</p> <p>・「道路清掃管理業務事業」において、市道80kmの除草を年2回以上行った。</p> <p>・「駅からハイキング実施補助事業」では、2月21日～3月3日の11日間の日程で駅からハイキングを実施した。天候に恵まれなかったものの、379人の参加があった。また、「水戸線整備促進期成同盟会参画事業」は、真壁のひなまつりと駅からハイキングのPRポスターの作成に対して10万円を助成した。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<p>・平成26年度の市民アンケートで「誰もが市内の道路が安全・快適に利用できる」と答えた市民の割合が18.6%と低かった。市民からの道路整備に関する期待水準は高いことから、道路改良率、道路舗装率を高める必要がある。</p> <p>・高齢化の進行により、公共交通の必要性が高まることが予想されることから、引き続き適切な公共交通のあり方について検討する必要がある。</p>	<p>・北関東自動車道・国道50号・主要地方道つくば益子線等の地域内外を結ぶ幹線道路、及び日常生活を支える市道、それぞれの機能に応じた道路ネットワークの整備を進めます。</p> <p>・高齢者や障害者等全ての人々が利用しやすい交通体系の構築や、交通が不便な地域の解消を図るために市内の公共交通を見直し、充実させます。</p>
基本事業	①国・県道の整備促進	<p>国道50号、主要地方道つくば益子線、石岡筑西線、一般県道東山田岩瀬線等、主要道路の整備を国・県に働きかけます。</p>
	②市道の整備	<p>要望内容及び必要性・緊急性を勘案して、市道の新設改良工事を行います。一級市道の舗装整備を補助金を活用し推進します。</p>
	③市道の危険箇所の整備	<p>道路パトロールや情報提供・要望を受けて、道路の損傷や危険箇所の把握に努め、その改善に努めます。また、老朽化した橋梁・道路付属施設・道路構造物の長寿命化を図るため安全性点検を実施し、計画的に修繕工事を行います。</p>
	④公共交通サービスの確保	<p>デマンドタクシーのさらなる利便性向上は民業圧迫につながる。また経費が大きくなり市財政を圧迫していることから、運営・運用を見直すとともに、桜川市の将来を見据えた効率的で持続可能な公共交通の在り方を検討し、地域公共交通網形成計画を策定する。</p>